

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年9月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2872100322		
法人名	社会福祉法人のじぎく福祉会		
事業所名	グループホームのじぎくの里		
所在地	兵庫県高砂市北浜町西浜 7 7 3 - 3 (電話)079 247 9206		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年8月4日	評価確定日	平成20年10月20日

【情報提供票より】 (20年6月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	37869		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤4人, 非常勤6人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5 階建ての 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(200,000円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (6月28日現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	5	要介護2	2
要介護3	2	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 85 歳	最低 93 歳	最高 75 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	井野病院
---------	------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>住宅街を抜けた山の中腹にある5階建ての「特別養護老人ホームのじぎくの里」の4階がグループホームとなっている。玄関・ベランダは施錠していないが、ご利用者が自由に外気に触れ五感刺激が得られるよう安全面への配慮を行っている。日常生活面の全てを職員が支援するのではなく本人が自立した生活が出来るよう支援していくことが必要であると考え、職員と利用者がお互いに協働しながら和やかで安心して暮らし続けることができる場作りを心がけている。利用者の生活歴や日々の生活での気づきを職員全体で話し合いながら一人ひとりの思いや意向の把握に努める取り組みを行っている。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>前年度の評価結果から改善項目は把握しているが、改善計画作成には至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:第三者4)</p> <p>自分たちの実施している日々のケアの振り返りの機会と捉え管理者・職員共に今回の自己評価を作成した。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>概ね2ヶ月に1回運営推進会議を実施している。参加の呼びかけを行っているが、幅広い立場の人が参加する会議には至っていない。会議では、ホームの状況報告・家族からの意見、情報交換などの内容で実施している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>職員から声かけや電話を行い家族の意見や不満、苦情を聴く努力を行っている。家族が面会に来られた時に職員から声かけをおこない、話しやすい雰囲気作りに配慮し、また、随時に電話連絡により意見・不満・要望等を聴くように努めている。家族からは個別の相談も多い。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>自治会行事には積極的に参加している。地域住民の散歩コースにもなっており、散歩途中に気軽に立ち寄りられたり、また、施設周辺は福祉村になっており、地域の方との日常的な交流が活発に出来ている。のじぎくの里が地域の避難場所に指定されている。野菜を頂いたり、災害時の非常食を利用して非常食作りを行い試食会を持つなど交流を深める取り組みを行っている。</p>

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム理念には地域住民との交流の文言は含まれていないが、地域との連携が含まれた法人理念を職員は理解し地域との交流を実践している。		法人理念を生かしつつ、地域密着型サービスとしての役割を目指したホーム独自の理念を作り上げることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームのホールに掲示している。毎年法人理念を参考にホームの部署目標を立て、理念を具体化していく取組がある。ホームの部署目標を参考に職員の個人目標を立て理念の実現に取り組んでいる。個人目標は3ヶ月に1回評価を行い修正している。		管理者・職員は常に理念を意識し、日常的に理念の具体化に向けて努力を重ねると共にケアサービスへの反映が望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会行事には積極的に参加している。地域住民の散歩コースにもなっており、散歩途中に気軽に立ち寄りられたり、また、施設周辺は福祉村になっており、地域の方との日常的な交流が活発に出来ている。のじぎくの里が地域の避難場所に指定されている。野菜を頂いたり、災害時の非常食を利用して非常食作りを行い試食会を持つなど交流を深める取り組みを行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自分たちの実施している日々のケアの振り返りの機会と捉え管理者・職員共に今回の自己評価を作成した。前年度の評価結果から改善項目は把握しているが、改善計画作成には至っていない。</p>		<p>今回の評価結果を参考に自分たちで改善可能なものから計画的に改善を実施していく事が望まれる。</p>
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>概ね2ヶ月に1回運営推進会議を実施している。参加の呼びかけを行っているが、幅広い立場の人が参加する会議には至っていない。会議では、ホームの状況報告・家族からの意見、情報交換などの内容で実施している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>法人全体としてのじぎくの里の広報誌は市に送付しているが、ホーム独自としては、必要時に連絡を取り情報提供や課題解決を行っている。</p>		<p>行事計画・広報誌などを市に配布することがホームへの理解を深める機会と捉え継続的な取り組みが望まれる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会が多く、面会時に職員から声かけを行い、普段の生活の様子を報告している。遠方の方には毎月お便を郵送しているが、近隣の方には来所時に直接言葉を添えて手渡している。お便りは日常生活場面の写真も同封している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた時に職員から声かけをおこない、話しやすい雰囲気作りに配慮し、また、随時に電話連絡により意見・不満・要望等を聴くように努めている。家族からは個別の相談が多い。		家族は不満や苦情を言いにくいことを理解し、家族会の開催、定期的なアンケートの実施等、満足度の把握を行うことが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの関係が大切であることを理解しており、移動は最小限にするように取り組んでいる。退職や移動があった場合は、利用者が安心して過ごせるような環境づくりを第一に考え対応している。常勤職員を3名に増やし指導を徹底することで離職を最小限に抑える取組を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体及びグループホーム独自の研修計画があり参加している。外部研修は、研修案内を職員へ回覧し研修参加希望がある場合は、勤務調整を行い参加支援を行なっている。外部研修参加後はサービス担当者会議で研修報告を実施し全職員で研修内容を周知している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東播磨二市二町グループホーム協会の会議に管理者が参加し意見交換会や悩みの話し合いの場となっている。今後は年2～3回勉強会を実施する予定である。職員は他のホームのとの交流もあり、特養などの大きな施設併設のグループホームへ見学などに行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入居は実施していないが、デイサービス利用日に本人に見学に来てもらったり、老健で入所待ちの方には、グループホームで過ごす時間を長く持ちホームに馴染んでもらうなど利用者個々に合わせた馴染みながらのサービス利用開始が出来るよう柔軟な対応を行っている。</p>		
<p>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の全てを職員が支援するのではなく本人が自立した生活が出来るよう支援していくことが必要であると考え、職員と利用者がお互いに協働しながら和やかで安心して暮らし続けることができる場面作りを心がけている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者とのやり取りの中で起こった現象のみを捉えるのではなく、なぜそのような現象が起きたのかを職員全体で気づき・考えながら利用者の思いの把握に努めている。利用者の生活歴を踏まえ、日々の生活での気づきを職員全体で話合いながら一人ひとりの思いや意向の把握に努める取り組みを行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>KOMI方式の一部を使用し本人・家族の希望や要望を把握、アセスメントを行い、担当者会議の中で解決すべき問題を話し合い計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個別の記録・申し送り等の情報を共有し、担当者会議で定期的に利用者個々の現状に合った計画の見直しを実施している。</p>		<p>介護計画の定期的な見直しと共に、利用者の状態の変化や家族の希望の変更による随時の見直し及び、安定した利用者についても、月に1回予防的視点での見直しが望まれる。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者や家族の状況や要望に応じた柔軟な対応を心がけているが、事業所としてどのような対応や配慮ができるか検討中である。</p>		<p>利用者一人ひとりの要望・希望に応じて必要時グループホームがどのように対応し、利用者が安心して生活できるかの検討が求められる。</p>
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族が希望するかかりつけ医へ定期受診の同行を行っている。適切な医療が受けられるようかかりつけ医に情報提供を行っている。緊急時は、連携病院に受診支援しており受診前にFAXや電話で情報提供を行いスムーズな受診へつなげている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化に対する研修・検討の必要性は理解している。現在ADLの重度の受け入れに対しては悩んでいるが、入所経過が長く自然な形で医療処置がなくホームで生活できるのであれば受けてもよいのではないかと考えている。</p>		<p>重度化や終末期の事業所としての方針の統一を図り、本人、家族と早期からの話し合いの機会を持ち、契約時から説明し同意を得ておく事が望ましい。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>全職員で会議時に個人情報保護やプライバシー保護について話を行い秘密保持・プライバシー保護の徹底を図っている。</p>		<p>定期的に個人情報保護やプライバシー保護について研修を実施し振り返りを行い今以上の徹底を図る取り組みを期待する。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかなスケジュールはあるが、利用者一人一人の体調や気分に合わせて利用者個々のスケジュールを決定し時間の余裕を持って生活ができるよう支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の希望を聞き職員が献立を立て買物に行き、調理している。調理は利用者の状況に合わせて一緒に実施している。職員も一緒に食卓を囲んで会話を楽しみながら食事をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在夜間入浴の希望がないため実施していないが、希望の時間・日に入浴ができるように支援している。時々デイサービスの大きな浴室に温泉として入りに行くこともあり、入浴が楽しみになるような取り組みもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の気持ちや力を活かした役割・楽しみごとが出来るように本人の言葉だけでなく表情や仕草から利用者個々の役割、楽しみごとになりえるかを把握し支援している。併設施設よりボランティアや行事への参加への誘いもあり楽しみごとの一つとして参加を楽しんでいる利用者もある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会と捉え季節・個々の利用者の体調に合わせた散歩や外出の支援を実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やベランダは施錠せず利用者は自由に入りができるようになっている。利用者の自由な出入りが分かるように予防的に玄関にセンサーがついており安全確保を行っている。		鍵を掛けない工夫や鍵を掛けることの弊害を常に話し合いし続けることを期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回消防署参加による消防訓練を施設全体で実施している。その他ホームだけで避難訓練を実施している。ホームにより近い職員順に緊急連絡網が作成されており緊急時にスムーズな対応ができる体制作りを行っている。サイレンが鳴ると地域の自衛団に通報されえるようになっており地域との協力体制も整っている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>体重測定月1回実施し個々の栄養状態を把握している。日々の献立を管理栄養士に見てもらい、次の献立作成に生かせるようにアドバイスを受けている。全利用者の水分摂取のチェック表を作成し摂取量の少ない人に関しては注意し脱水予防を行っている。利用者一人一人のその時の食べ具合に合わせて提供しているが、初めからきざむのではなく本人に説明同意を得てからきざんだり、箸を使いたい希望があれば体位や介助方法を検討し対応している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広く長い廊下には、利用者が自力で安全に移動できるように家具を配置し、随所に配置された椅子に思い思いに腰掛け過ぎしている。食事の支度の臭いや職員や利用者の自然な会話から安心して過ごせる生活感が感じられる環境がある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や小物の持込を働きかけ利用者個々の趣味や嗜好、今までの生活習慣などが感じられる居室作りがなされている。		

は、重点項目。